

第5回 魚津市総合戦略推進委員会 会議録（HP）

- 1 開会
- 2 議題

（会長）

先日の積雪はどうであったか。本日も本市に来られてうれしい。魚津といえば米騒動が有名だが、当時、男性は勿論、多くの女性が奮起したという話が残っている。今回の総合戦略の中でも女性が活躍するコンテンツが含まれているので楽しみである。それでは議題に入る。本日は国から交付金を受けて先行して実施してきた事業について、意見を願う場である。

では、議題（1）地方創生先行型事業の検証に関して、事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

（会長）

説明のあった先行型事業について、質問があればどうぞ。

《質問なし》

それでは、前から順番に見ていくこととする。基本目標1について、質問をどうぞ。

（A委員）

森林関係の事業について詳細は把握していないが、ここにあるように、進んだということを知っている。今シーズンは雪が少なかったがどうだったのかわからないが。

（会長）

結果は継続してやってみて、あとからわかるものなので、まだこれからというところか。資料1、P3の資格取得に関して、今後拡大するということが、資格取得のための助成金を受けた人の中で、女性の割合はでているのか。

（事務局）

女性の割合は把握していない。

（会長）

総合戦略の方針として、「女性」というキーワードがあるので、女性を取りやすい資格はあるのか。美容師資格取得についても対象となるのか。

(事務局)

現場から要望も聞いてこれからの該当資格の拡大を検討している。今後も地元をはじめ、中小企業のニーズを聞きながら拡大していく予定である。市内の中小企業の声としては、現状、有資格者の就職希望がなく人手不足であり、就職させてから職場で資格を取得させるケースが多いとのこと。しかし、現在のところ、長期に渡って取得までに時間がかかる美容師資格の取得は対象外である。

(B委員)

運輸関係についての資格助成についてはどんなものが対象か。

(事務局)

資料にもあるように、2種免許や大型免許等、様々ある。

(C委員)

介護業界での働き手不足は新聞・ニュースでも不足していると聞いている。ここにある福祉関係の資格取得については主に介護業界に関連するものか。

(事務局)

多くの資格が介護と関連がある。

(C委員)

本市も介護業界の働き手が不足しているそうなので、ぜひ今後も手厚く行ってほしい。

(事務局)

委員のご指摘どおり、介護業界は人手不足なので、以前から力を入れて支援をしているが、今後も特に力を入れて、介護資格の助成を進めていく。他にも必要な資格については検討の上、助成の対象とする動きをとっていく。

(会長)

この助成制度は、資格であれば何でも良い、資格を取って後から申請しても助成してもらえるわけではないのか。

(事務局)

あらかじめ、どの資格が助成対象であるかは示されているものだ。一年に一度、必要な見直しは今後も行っていく予定である。本事業で支援を受けるためには、資格取得以前に申請が必要なものである。

(会長)

新規創業が4件あったという結果は、良いものだと思うがどうか。

(D委員)

新規創業者への支援について、黒部や魚津で創業したい人は魚津なら助成金受けられる事業がある、という旨を日頃より情報発信しているが、課題としては、先に創業支援のような制度があるにも関わらず、ほとんどの人はその情報を知らずに創業しているので、結局助成は受けられないという例が良くある。認定支援機関による実務者レベルの連携会議は補助金のある早めの時期に実施してほしい。

(事務局)

そのようにする。

(会長)

インターンは大学生が対象ということであるが、意見あればどうぞ。

(E委員)

本年度でいうとほとんどが県内の人で構成されている。地元の魚津出身者が多い訳ではないが、新川地区、富山地区、高岡地区それぞれ1/3ずつほどである。これらに参加する人をみると、就職も地元志向が強い。

(事務局)

本事業の狙いは当初、現在都会に進学している若者が、地元に戻るモチベーションづくりの一環として行おうとしたものである。実際は事業実施も遅くなった関係で狙いどおりの応募がなく、もともと魚津には縁がなかった東洋大学の学生であったが、大学生の若く、よそからの視点は新鮮であり、地元の人には刺激を受けて参考になったと好評であった。今後も引き続き取り組んでいこうと考えているが、本来の狙いは地元出身の若者の参加である。

(C委員)

東洋大学生インターンの報告書を拝見し、大学生らしい部分もあったが面白かった。それが今後、面白い内容については、市の施策にも反映されてくると良いと思う。また、本来の目的である地元魚津を離れた若者を呼び戻すひとつの方法として今後も続けてほしい。

(事務局)

事業実施の上で参考にしたい。

(会長)

商工会議所のメンバーには色々なアイデアを持っている人も多くいると思うので事業実施の際、相談できる部分はしつつ、魅力ある事業を行ってほしい。では、基本目標2について、意見があればどうぞ。

《質問なし》

(会長)

観光客入込数は実績がでていないので評価できないが、プロモーション事業については、まだ実績数値がさみしいものに映る。

(事務局)

動画等、新しいコンテンツが出来上がったばかりなので、まだアクセス数は少ない。

(会長)

魅力ある動画等プロモーションするものを作っても、効果的な発信をしなければその魅力が多くの人に伝わらないので、周知を頑張してほしい。

では基本目標3の不育症についてだが、これは医療機関との連携で行っているのか、などが気になるところである。意見あればどうぞ。

(F委員)

本事業は、県内では、富山大学病院1箇所のみで行っていて、全国的にもあまり大きく進んでいないということである。

(G委員)

不育症の人は基本的には動くことができない。それが、魚津市から富山市への移動となると大変な負担である。難しいところである。

(事務局)

産婦人科が市内にたとえあっても、本件の治療ができるわけではない。本事業の助成についての申請は市役所で受付は可能である。ただ、富山大学病院まで長期間通うという本人の強い意志も必要である。他にも、子どもがほしい住民に向けた支援をできる限り行っていきたいと考えている。

(F委員)

場所が遠いこともあるが、不育症の治療自体をできる人が限られており、診てくれる人が少ないのは仕方がない部分である。

(会長)

助成事業の各論だけみても、ここで議論するのは難しいというところか。もっと大きな視点での施策検討が必要であるということだと感じる。

(F 委員)

流産を繰り返すというのは悩ましい。治療効果は受ければそれなりに上がるという事であるが、簡単ではない。

(会長)

三世代同居については、実績として良い数値が上がっているようである。基本目標3についてはいくつか意見を頂いた。今後の参考としてほしい。では次の議題(2)魚津市総合戦略改訂案について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

(会長)

総合計画でも「女性」というキーワードがあるが、本総合戦略にもこのキーワードが加わった。変更点などについて意見があればどうぞ。フォーカスを充てる対象が若者だけでなく、女性にもあてていこうとするものである。加えることについては異論ないとは思いますがどうか。

(G 委員)

反対ではないが、P12で若者、女性をはじめとする「すべての市民」とし、市民すべてが対象であるような表現のほうが良いと思う。

(H 委員)

若者や女性より先に「市民」を持ってくるほうが良い。

(事務局)

今回の地方創生における大きな視点での人口減少の主な要因として、若者や女性が地域に残らず都会にでてしまい、地元に戻ってこない、という事が大きな課題となっている。その解決のため本計画書の記載表現として、若者と女性というキーワードを使って表現した。当然、すべての市民が対象である計画書であるのはもちろんであるが、そこから特に「若者・女性」という表現でフォーカスをあてる対象を強調したという事である。

(G 委員)

総合戦略の本質を聞いて理解できた。

(会長)

今回、視点をあてる部分以外も、稗島委員からの意見あった「すべての市民が快適に暮らすことができる」という基本的な目標は忘れずに、施策を実施してほしい。次にP19,20あたり、観光に関して木下委員に意見を願う。

(H委員)

外国人旅行者宿泊の毎年300人増加は寂しい目標である。タイのチェンマイも姉妹都市であるので、台湾だけでなく、インバウンドすべてに対して、観光客を誘致して欲しいと感じる。事業内容については現状の台湾インバウンド事業をきっかけとしているのは良いと思う。

(事務局)

庁内でも「台湾」という表現を入れるかどうか、ずいぶん議論を重ねた。昨年からは台湾観光客の誘客を重ねてきた。我々としても今回の台湾からの観光客の誘致を今後のインバウンド施策のノウハウを蓄積するためのスタートと考えており、台湾だけをターゲットとしているという訳ではない。

(I委員)

外国人宿泊人数が毎年300人増加ということで、箱ものは上限定員が決まっているため、いつかは横ばいになる。目標数値については今後検討が必要となってくると思う。

(事務局)

今後5年間の目標数値ではあるが、数値の再検討は必要に応じて行っていく。

(会長)

議題(3)平成28年度総合戦略事業について、事務局より説明をお願いする。

(事務局説明)

(会長)

様々な事業について説明があったが、ご意見あればどうぞ。

(F委員)

滑川市の子育て支援について、来年度より第2子からの保育料無償化が大きなインパクトがあったようだ。地域での声を聞くと、これから家を建てるなら滑川にしようかという声を実際に聞く。本市でも、子育て支援関連でこのような取組ができる可能性はないのか。

(事務局)

本件については市内でも議論をし、実際に予算的なシミュレーションも行ったが、同じことを行うことは難しいという結論であった。似たような支援内容を各市町村で競争のように行っており、隣がやれば我々も対抗して同じような施策をする、という状況があるようだが、本来であれば国が全国的に子育て支援に手厚くしていくのが理想である。残念ながら、滑川と同じ内容での施策展開を本市ですることは現状見合わせなければならない。

(I 委員)

会社の中にもまさに同じことを言う人がいる。魚津出身だが、家を建てるときに滑川に引っ越したそう。誠に残念である。

(会長)

現実にはインパクトがある施策が効果を発揮するよう思うところもある。魚津も万人にわかりやすい、なにかしらインパクトがある施策を検討する必要があるのではないかと思う。

(I 委員)

行政としては少子高齢化が進み、税収が減っていく中、行政の財政運営から見ると手当の拡大は大変だと思う。限られた予算の中でやりくりする必要がある、すぐに好きな施策を実施できるわけではないと思う。高齢者も、年金が減らされるのが嫌だから働かない、という選択をする人も多いようである。ここで議論する事ではないが、労働人口が減少する中で、今後は高齢者も社会にでて、働くべきであると感じる。行政にとっても難しい世の中になっていると思う。

(会長)

総合戦略の中で、優先順位をつけて、推進していくことが大切なのかなと感じた。今後も事務局で検討を重ねながら、施策を進めてほしい。

それでは次に今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いしたい。

3. 今後のスケジュールについて

(事務局より説明)

4. 閉会

以上